

第3回 田名部まちなか再生検討委員会 議事要旨

■議事

1. モデル地区の名称について

- ① 委員会には五町連絡協議会からも参加して頂いている。田名部祭りの視点から、先行するモデル地区に相応しい名称はないか。(事務局)
- 五町内の人頑張ることになる。祭りの組でも良いが、“田名部まちなか”でも良いのではないか。(渡邊勲委員)
 - 田名部だけでなく、五町が入っているという意味でも“まちなか”を付けた方が良い。(二本柳委員)
 - “田名部まちなか”地区とする。(事務局)

2. 具体的な目標の必要性について

- ① 資料3の「具体的な目標の必要性」を私も感じる。柳町を例にとると、商店が無く、老夫婦だけの世帯がかなり多い。動機付け、目的意識を持たないと自主性のあるまちづくりは出てこない。この辺をかなり説明できるようにまとめてもらいたい。(二本柳)
- 協議会で議論していくときに、その当たりを具体的にしていかないと形だけになってしまう。商売をしていない人だけでなく、住んでいる人の活性化を考える議論を、具体的にアクションプランに入れるべきという意見だと思う。商店街活性化計画ではない。(北原委員長)
 - ご指摘の通り、協議会の議論に盛り込んでいく。(事務局)
 - 街並み環境、賑わいの創出、駐車場の話など委員から意見が出されている。そうした個別の課題に対応する分科会を開催し、議論していかないとトータルでのまちなか再生にはつながらないと考えている。(事務局)

3. 事業・活動のアイデア“歴史民俗資料館”について

- ① 資料4の2頁目に「代官所の再現」とある。むつ市は斗南藩があったことから、会津若松市と姉妹都市の関係にある。弘前市には観光の目玉が有るが、むつ市には無いという意見も他の資料にあった。私は円通寺の前に住んでいるが、よく恐山に観光に来る方が円通寺に寄るが、有るのは招魂之碑だけ。福島県から来る方が多いと思うが、ガッカリして帰っているのではないか。斗南藩も観光の目玉になると思う。バスで来る方がゆっくり見られるところがあれば思う。斗南藩の資料も教育委員会が持っていると思う。そういうものを観光客に見てもらえる場所を、協議会でも議論してほしい。(中村満雄委員)
- 歴史民俗資料館をつくるときに、斗南藩の事も含めて、まちなか再生とつなげて議論してほしいという意見だと思う。(北原委員長)
 - 従来であれば、市民から意見を聞いて、施設を作ったら作りっぱなしだった。今回のエリアマネジメントを通じて、皆さんとともにどういう施設を作って、どういう人に協力してもらい資料を収集するか、作った後の観光への活用や地域での活用も含めて検討していきたい。来年度個別の分科会で展開できればと思う。(事務局)

4. 事業・活動のアイデア “市民が学び、歴史の流れを踏まえて、標識やサインをつくる”

① 私は田名部町に住んでいるが、駅が無くなり、駅前という名称も無くなった。直ぐそばにパークホテルが出来、観光や仕事で泊まりに来る方がいるが、ホテルでは夕飯を出していないので、飲食店の地図を見て食べに出ているようだ。

名所に由来札を立ててはどうか。街の人が分かっていない説明ができない。我々も勉強すれば観光で来た人にも説明ができる。そういう物が20~30箇所も必要だと思う。

三十三観音札所巡りの杭があるが、あれは番号ぐらいしか書いていない。

我々の地区には常念寺や田名部神社など、昔ながらの地名や場所がある。30歳ぐらいの人が、観光客に悠々と説明できるようでないといけない。（庭田委員）

→ QRコードで観光情報を提供するアイデアもあったが、散策ルートを巡るサインもある。サインを計画する時に、まずは市民が由来を学んで、どんな文章を書くか考える分科会があっても良い。それが“育てる”という事だと思う。委員会からの意見として、散策ルート、まちなか観光を地域の人が積極的に仕掛けていくという内容を、活動計画に盛り込んでほしい。（北原委員長）

→ 盛り込む方向で検討する。（事務局）

② 活動計画の中に、“昭和通り”とあるが、具体的にはどこを指しているのか。（二本柳委員）

→ 52頁の図に示している。代官山から東に進み、小嶋商店の脇に入り、田名部神社裏の公衆トイレの前を通り、飛内旅館別館、中野商店の脇を通っていく細い路地を指している。（事務局）

→ 昭和通りが江戸時代の地図にも出てくる。昭和というのも合わない感じがする。（二本柳委員）

→ ワークショップの中で“昭和通り”と出たのは、昭和レトロな雰囲気や景観などに出さないかという意味だったと思う。江戸時代から明確に通りが示されていたのであれば、少し考えても良いかも知れない。（北原委員長）

③ 小川町の摩利支天さまの軒下から酒屋さんを通って、青森銀行の右側を通っていくと磯沼さんという料理屋さんがある。そこを右側に行くと明神川の橋に出る。そこを真っ直ぐ行って線路を越えて中村眼科のところへ出る。これを通称「ろうかぐじ」（牢屋のかぐじ）と言っていた。

代官所から罪人を唐丸籠に乗せていくときに、町の人に見せたくないという事で、そこを通ったようだ。そういう通りもある。（庭田委員）

→ 知っているようで知らないこともある。散策ルートを考えるときに紐解いて勉強していくことも大事。名前を変えるのも面白い。（北原委員長）

→ サイン、通り、交差点の名称を決めるときには、庭田委員を先頭に進めていきたい。（事務局）

④ 庭田委員の意見に関連するかも知れない。将来像にも示されている「歴史」に目を向けると、歴史の流れではなく、点で理解されていることが多すぎる。

例えば、斗南藩の話もそうである。会津が没収されて斗南藩を興したが、そこは南部藩の所領地だった。何故そういう関連になるのか。

田名部町に常念寺という浄土宗のお寺がある。国指定重要文化財の阿弥陀如来がある。話を聞くと鎌倉時代のものらしい。何故そこに有るのか。

当然そこには流れがあるはず。大抵はそういう流れを理解していない。難しい話ではあるが、折角まちづくりをするのであれば、例えば歴史の流れを大事にしながら、説明して理解してもらうのも必要な事だと思う。（今村委員）

→ そもそもエリアマネジメントは、点ではなく、人の動きを使って流れをつくっていかうという

ものである。時代の流れやつながりを、これを機会に学ぶべきという意見だと思う。難しい話も出てくると思うが、上っ面の学びではなく、それをサインなどに活かしていければと思う。それだけの資源があるという事でもある。（北原委員長）

- ⑤ 昔本町通りの浪岡歯科医院の左隣に近太旅館という旅館があった。この家は先祖が近江商人である。その家のご主人が軌道馬車についての本を、去年の10月に出した。その本の中に、今村委員が言ったような事が書かれている。

第一田名部小を背にした軌道馬車が柳町の方に進んでいくと、酒屋さんが有って、白浜邸が有って、駅の所はこんな街並みだったという事が、その本に書かれている。

必要であれば、非売品なので、近太さんに聞いてみてはどうか。共同印刷で出版している。（庭田委員）

- 埋もれてしまわないように、そういう資料も使う必要がある。建設部の事業であっても、そういうことに詳しい教育委員会など、様々な人と連携して、このエリアをつなげていくことになる。来年度の協議会に協力していただく人材も広く考える必要がある。（北原委員長）

5. 活動計画（案）の決定について

- ① 先程の歴史の流れを歩いて見ていくような文章を付け加えた上で、来年度の協議会、分科会で広く皆さんで協議していく、或いはパブリックコメントの意見も拡大解釈するなどして進めていくこととして、この活動計画（素案）を案として協議会に出すことを、委員の方々に了解を頂くことで宜しいか。（北原委員長）

- 活動計画（素案）を活動計画（案）とすることに委員の反対は無く、了承された。

6. 協議会委員等の公募について

- ① 第4回ワークショップで公募についての意見が出ていたが、協議会の立ち上げとの関連を説明してほしい。（小川委員）

→ （仮称）まちなか再生協議会の暫定事務局として、ワークショップの参加者も含めて、協議会への参加について市が公募をする。（事務局）

→ 協議会への参加もあるが、協議会の下にできる小さな分科会への参加というのものもある。分科会ができたときに、公募するのも良いと思う。全体の議論よりも、本当に興味のあるところに関わりたいという人もいる。2段階で考えた方が良いかも知れないので、検討してほしい。（北原委員長）

- 公募の仕方について検討する。（事務局）